

ニシンが獲れる 海を目指して

2月13日、栽培漁業総合センターにおいて、ニシンの採卵作業が行われました。

本町では「農業漁業で喰える町」を基本方針として様々な施策を行っています。このニシンの採卵は、かつて上ノ国町の海に群れとなって訪れたと伝えられているニシンの復活を目指して行われているものです。

この日採れた百万個以上のニシンの卵は、栽培漁業総合センター内でふ化を待ち、今年の春には稚魚を海へ放流することとなっています。



上ノ国漁業の これからを考える

2月25日、町とひやま漁協が主催する「上ノ国漁業大会」が漁獲増大に向けた取り組みが総合福祉センター（ジョイビュウ）で開催されました。

上ノ国町で初めて開催された今大会には約120名の漁業関係者が参加し、山崎檜山振興局長の基調講演やこれまで放流した養殖稚魚などの人口種苗追跡調査報告のほか、これからの漁業振興に向けた意見交換が行われ、参加した方々から貴重な意見が飛び交う活発な大会となりました。

